

あることについて学費が安いと収支は釣り合っているのか、例えば先生方の人件費を市民の税金から支払っているのではないかと感じている市民の皆さんに実はそうではないという話をさせていただいています。津市として高等教育機関を維持していくことは、経営もしっかりと管理しながら判断しなければならないことです。その上で三重短大の魅力、2年間の大学としての強み、先生が感じた特色などをお話しいただけますか。

東福寺 学生からすると授業料が安いことが一番の魅力かもしれません。同時に2年間でしっかりとした教育を受けることができ、資格も取得できます。私からすると本学の特長は社会科学系と自然科学系の学科が存在する総合短大であり、全国各地から学生が集まるとともに、法経科第2部では多様な年齢層の学生が混在しているのが、現代のキーワードであるダイバーシティを実現しているところにあります。さらには教員と学生の距離が近くてアットホームな雰囲気もあり、地域貢献に注力しているところも魅力の一つだと考えております。

市長 多様な学生を受け入れているのが、今の三重短大の姿であろうかと思えます。公立短期大学は形を変えていくところが多くなっていますが、今後三重短期大学はどうあるべきか、立場を離れられた今、少しお話をいただけますでしょうか。

東福寺 今年の3月初旬に東京で学長セミナーというものがあり、私も出席してきました。3人の他大学の学長が基調講演をされていましたが、共通していたのは、知識がインターネットから得られるようになった現代社会において、大学の役割とは、考える力を育むことだということと一致していました。

また、個性化を図ることが大切だということもおっしゃっていました。三重短大になぞらえて考えると、まず基本的な概念を身に付けることが大前提になりますが、その上で、津市立の高等教育機関として津市固有の課題について、教員と学生が一体となって考えて、さらに政策への提言までできれば素晴らしいと個人的には思っています。一昨年から三重短大では、将来の在り方についていろいろと検討しており、そ



のリーダー的な役割を果たしてくださったのが村井新学長です。村井学長は就任1年目から具体的な改革に乗り出すと思うので、ぜひ温かい

目で見守って、できるところでのご支援をお願いしたいです。

ダイバーシティに地域貢献 さまざまな三重短大の魅力

市長 これからの時代の変

化、取り巻く環境の変化に応じて三重短期大学も少しずつ姿形を変えていかなければなりません。ただ一番根っこにある、建学の精神と、地域貢献、そしてどのような教育をするのかという使命をしっかりと我々設置者側も受け止め、大学においてもそのような活発な議論を期待しています。

最後に三重短大で学ぶ学生たち、これから三重短大で学びたいという未来の学生たちへメッセージをお願いします。

東福寺 物理的空間としては、三重短大は狭いかもしれませんが、そこでの体験は四次元的な広がりを見せると思っています。どのくらい広げられるかはその人次第なので、しっかりとテーマや目標を決めて学習に励むことが大切です。2年間という短い時間ですが、人生の礎となるような教養や能力を育んでいただきたいと思います。

市長 ありがとうございます。津市としても、しっかりと大学の経営をサポートし、設置者として責任を果たしてまいりたいと思います。